

荒木秀明 著

骨盤・脊柱の正中化を用いた非特異的腰痛の治療戦略

原 清和（札幌第一病院リハビリテーション科）

腰痛は多くの人々が経験するもので、本邦では男性で1番目、女性で肩こりに次いで2番目に、訴えの多い症状です（厚労省「平成28年国民生活基礎調査」より）。その腰痛の中でも、原因が特定できるものは15%であり、残りの85%は原因が特定できない“非特異的腰痛”と呼ばれ、心理・社会的要素を考慮することが必要とされてきました。

それに対して本書は、「日本人における原因不明の非特異的腰痛は20%である」という一文から始まります。このことは、腰痛疾患への対応をライフワークとし、中でも非特異的腰痛の解明に尽くされてきた著者・荒木秀明氏が最も述べたかったことであり、本書の結論となるべきものかもしれません。

非特異的腰痛を減らすために、荒木氏は「骨盤・脊柱の正中化」という評価手技を提唱しています。そのため本書ではまず、骨盤・脊柱の構造的な非対称性と、それに対する機能的な非対称性との相違や原因、それらによって生じる問題について、豊富な文献をもとに検証しています。続いて正中化する理由や、自動運動と圧痛所見に着目した評価法、そこから導き出された結果の分類から手技を用いる際の鑑別フローチャートまで、順を追って解説することで理解しやすいものとなっています。特に手技の解説では、写真を豊富に用いており、またケーススタ

ディを通して実際の臨床場面での使用方法が非常にイメージしやすい構成となっています。

エビデンスの重要性がうたわれてから久しいですが、荒木氏は以前からその重要性を認識していました。その一貫した姿勢は、本書でも変わりません。

また、かねて諸外国の進んだ知識と技術の習得に熱心でしたが、ただそれらを受け入れるのではなく、オリジナルとして本邦から発信できるものになくしてはならないと話していました。本書で紹介している手技からもそのことがうかがえ、荒木氏がたゆまずにその道を進んでいることをあらためて実感しました。

豊富な臨床経験と確かな技術、そしてエビデンスに基づいた評価法に裏打ちされた本書は、これから非特異的腰痛について学ぼうと考えている方、あるいはその対応に苦慮している方、また徒手療法に興味がある方など多くの方々にとって、価値ある一冊となるでしょう。

本書を読んで、“原因不明”とされる非特異的腰痛の“不明な原因”を減らすために役立てていただくことを希望します。

（B5 頁144 2018年 定価：本体3,800円＋税
[ISBN978-4-260-03552-1] 医学書院刊）